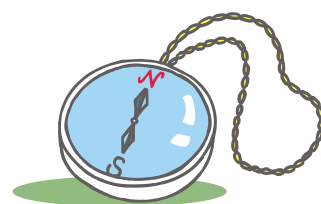


羅 針 盤

第 18 号

令和8年10月19日（月）



◆ 「時を守り 場を清め 礼を正す」

生徒の皆さんは、「時を守り 場を清め 礼を正す」という教えを知っているでしょうか。この言葉は、哲学者であり教育者でもあった森信三（もりしんぞう）が残した言葉です。現代社会においては、「職場再建の三原則」とも言われている言葉です。「職場再建の三原則」とは言っても、その意味は、ごく当たり前の普遍性の高いものであって、教育現場だけでなく企業理念や社会人教育として使われることも多く、生徒の皆さんにとっても近い将来に、しっかりと社会貢献できる立派な社会人として認められる人間となるための教えとしてとして、必ず身に着けておかなければならないことであると思います。「時を守り 場を清め 礼を正す」それは、人間成長を促す三原則であり、時間を厳守し、周囲を清掃・整頓し、挨拶や返事を徹底するという、ごく平凡なことを徹底（凡事徹底）することによって信用と人格を高めることができるという教えです。より具体的に言えば、【時を守り】とは時間を守ることですが、その真の意味は、相手を尊重することであり、そして、それにより自分が信用を積み重ねることができるということ。人との待ち合わせの時間を守ること、それは、相手を待たせることが無いように心がけるということであり、そのことは、相手を尊重することを心がけることによって出来ることでもあり、それが自らの信用を高めることに繋がっていくということです。次に、【場を清め】とは掃除をすることですが、掃除をすることの意味とは、気がつく人になれる、心を磨くことができる、謙虚な人になれる、感動の心を育むことができる、そして、感謝の心が芽生えるということに繋がっているということです。最後に、【礼を正す】とは挨拶をすること、返事をすることですが、つまり、挨拶の意味とは、心を開いて相手に迫るということ、挨拶をすれば人間関係がよくなり、挨拶をしなければ人間関係が悪くなる以前のことであり、挨拶はお互いのエールの交換に繋がっているということ。相手よりも先に挨拶をすることを心掛けることが何よりも大事なことです。相手が答えてくれなくても、相手に元気をあげることができたという思いを持てることが大事なことで、そのことに大きな意味があります。毎日の学校生活では、いろいろな出来事や様々な場面があります。その一つひとつの出来事や、一つひとつの場面で懸命に時間を守りながら、最後までやり抜こうと努力すること。そして、その行為のすばらしさを感じ取り、それを続けることが自らをより良き方向へと導いてくれているといった実感が持てることが大切です。それらのことがより良い未来へとつながっていると捉えることができる力の積み重ねとして蓄えられていくはずで、小さな行いの積み重ねの差とい



たものが、やがては、何でもないことであつたはずなのに、大きな差となって表れるものなのです。当たり前のことを、丁寧に坦々と続けることが、いつかキラキラと輝いているものへと変化していくのです。それは、何よりも自分にとってのかけがえのないものになるはずで、誰にでもできる平凡なことを、誰にもできないくらい徹底して続けることによって、偉大なことや、あるいは、非凡なことが生まれてくるものです。「時を守り 場を清め 礼を正す」という教えを、日々の学校生活や日常生活で実践することが、人としての成長に繋がり、お互いの学びが深まっていくものではないかと思います。